

〔巻頭言〕

本学の心理臨床の歩み

札幌学院大学大学院臨床心理学研究科長 滝 沢 広 忠

現在の心理臨床センターあるいは大学院臨床心理学研究科の沿革については、他の人によって語られるであろう。そこで私は本学に臨床心理学研究科が誕生するまでの歴史的背景について簡単に述べておきたい。

本学に人文学部人間科学科が開設されたのは1977年のことである。設立当初の心理学関係の専任教員としては、定方昭夫先生と奥野明先生がいた。定方先生は上智大学大学院で霜山徳爾先生の薫陶を受けた方で、ユング心理学に造詣の深い先生であった。また奥野先生は教育心理学がご専門で、小林好和先生はその教え子である。その他非常勤講師として、札幌医科大学心理学教室の杉山善朗先生、竹川忠男先生、大坊郁夫先生が心理学関係の科目を担当していた。それから当時北海道教育大学に勤務していた伊藤則博先生も非常勤講師として発達心理学を教えていた。私は翌1978年10月に着任している。専門科目（「人間の形成と発達」コース）が始まるにあたって準備が必要とのことでこの時期の採用となった。

当時北海道では杉山善朗先生が臨床心理学の中心的存在であり、心理臨床家の多くが札幌医大の心理学教室に集まっていた。私は1974年から研究生としてそこに所属していた。その頃市川啓子先生も心理学教室に出入りしていた。澤田幸展先生はちょうどその年札幌医大の助手になった方である（本学には1981年着任）。その少し後、清水信介先生が札幌医大に講師として赴任し、室蘭工業大学保健管理センターを経て、1990年に本学に来ることとなる。私は1978年、手稲研修センターで開催された人間関係研究会主催のエンカウンター・グループに参加している。そのときのファシリテーターが清水先生であった。このグループには、当時北大の大学院生であった葛西俊治先生も参加していた。

さて、私は本学に着任する前、3年半ほど市立函館保健所に勤務しており、そこで三歳児検診に携わっていた。主に自閉的な子どもや知的発達の遅れた子どもの発達経過を観察しながら相談にのっていた。そのような経験があったことから、本学着任早々、自分の臨床の場を確保するため、1号館1階にプレイルームを作ってもらった。余談であるが、しばらくすると布施晶子先生がこの部屋を訪れ、「ねずみはいないの?」と尋ねてきたことを今でも覚えている。当時心理学といえば、実験心理学が主流であり、私も基礎実験などを担当していたのである。1984年に小山充道先生が来られてカウンセリング関係の科目を担当するようになり、徐々に臨床心理学的色彩が強くなっていった。

心理臨床センターの前身である札幌商科大学心理・教育相談室が開設されたのは1980年10月である。初代室長は奥野明先生であった。この相談室は、実質私の心理臨床活動を公的な形で認めてもらうために開設したものである。その実践報告は「心理・教育相談室報告」に掲載されている。第1号に私は「断続的に登校を拒否した女子中学生の事例」を発表した。この論文のコメントを細木照敏先生に書いていただけたのは貴重な体験であった。なお「心理・教育相談室報告」は、4号で休刊となってしまった。

私は札幌医大の研究生のとき、市立札幌病院、付属静療院、北大保健管理センターで非常勤の仕事をしていた。心理検査が中心で、当時は臨床心理士などという資格も名称もなく、俗に「テスト屋」と呼ばれていた。心理学専攻の人が現場に勤めても、まだまだ心理療法に携わる機会が少なかった時代である。

精神療法懇話会(現在の北海道精神療法懇話会)という事例研究を中心とした学習会が発足したのは1983年である。これが札幌近郊の心理臨床家を結束させるひとつの契機となった。前年の1982年、当時山梨大学保健管理センターに勤めていた松井紀和先生が札幌に招かれ、グループ・ダイナミックス・セミナーが

開催された。それに参加していた若手の精神科医や心理士が事例研究の場を持ちたいということで始めたのが、この懇話会である。池田光幸先生が中心となって会は発展していった。多い年には80名ぐらいの会員が所属していたのではなかろうか。毎年著名な先生をお招きして公開スーパービジョンも行っていった。しばらくして九州から札幌に戻られた安岡譽先生もこの懇話会のメンバーとして加わっている。

1988年に日本臨床心理士資格認定協会が発足し、臨床心理士が誕生した（当初北海道在住の臨床心理士は36名であった）。そして1992年に日本臨床心理士会北海道地区会（現在の北海道臨床心理士会）が設立され、池田光幸先生が初代会長として就任することになる。

臨床心理士の資格が出来、スクールカウンセラーが公立の中学校に配属されるようになった頃から、心の専門家として「臨床心理士」も認知されるようになり、俄かに臨床心理学に対する社会的関心が高まってきた。たまたま本学には臨床心理学を専攻する教員が集まっていたこと、清水先生が心理臨床センターを中心に実践活動を展開していたことなどから、大学院設置の条件が揃いつつあった。そして2000年に大学院臨床心理学研究科が開設されることになり、現在に至っている。